

## ●神秘性漂う「座頭測」

鱈塚山のふもとを源流とする沖水川の上流、約十<sup>キ</sup>にわたる峡谷が長田峡である。ここが今、「癒やしの道」ともいえる新しい観光ロードになっている。

県道に沿って奇岩が続く。上流から「乱れ測」「座頭測」「長測」「がま測」「轟木測」と浸食作用によって洞穴となったふちが続く。神秘性を漂わせるのが、ふちの長さ五十<sup>メートル</sup>、水深六<sup>メートル</sup>の「座頭測」。コケの生えたカシの大木から下をのぞきこむと、異様な気持ちになる。

がけの中腹に幅一<sup>メートル</sup>ほどの遊歩道があり、所々にベンチも設置。絶好の釣りポイントでもあり、ヤマメやウグイの釣り客でにぎわう。

美しい自然環境は感性豊かな陶芸家たちを呼んだ。現在、紫麓窯（山下盛親さん）、生楽陶苑（園田一成さん）、宮陶（宮田重昭さん）、飛龍窯（飛松昭紀さん）と個性ある窯が立地、アトリエ

ロードとして特に女性の間で人気を広げている。花の里でもある。権八重公園のツツジは四月上旬から中旬にかけて、風景を紅色に染める。一八九五（明治二十八）年、都城市の新川芳太郎氏が長田を永住の地と定め、四十年間の努力によってツツジの名所に育て上げた。

花の名所がもう一つ。「しやくなげの森」。春には白、ピンク、紫と華麗な五百種、三万本のシャクナゲが咲き誇る。池辺美紀さん（しやくなげの森代表取締役）が丹精したものだ。ここにはヤマメの炭火焼きや甘露煮の食の恵みもあり、特に夏は長田峡の清流と吹き抜ける心地よい風に、暑さを忘れる。

「しやくなげの森」から県道を新矢立トンネルへ向かうと、「ワサビの里」がある。日高柳幸、日高新三郎さんは祖父の時代から、ここにワサビ田を持っている。標高七〇〇<sup>メートル</sup>の「むげん谷」

のワサビの棚田には清水が流れ、冬は凍り付き、夏には白くかれんな花が咲き、三年ほどで最高のワサビとなる。本物のワサビの味を求めて立ち寄り、自家漬けのワサビ漬や生ワサビ、田舎ワサビを買い求める人が多い。

長田峡はJR三股駅から県道都城北郷線を東へ約八<sup>キ</sup>、車で約十分。県立鱈塚自然公園の一部で、「南の高千穂峡」とも呼ばれる。一年を通して「渓谷散策」「窯巡り」「ツツジ、シャクナゲ観賞」、そして「ワサビの里」と長田峡はいろんな楽しみを訪れる人に提供してくれる。まさに「癒やしの道」である。

竹原由紀子



長田峡。1年を通して訪れる人を癒やしてくれる